

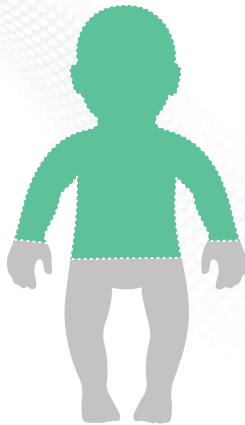
CASE STUDY

Jeffrey Carter, MD, University Medical Center,
New Orleans, LA; Joseph Andrew Molnar, MD, PhD and
James H. Holmes IV, MD, FACS, Wake Forest Baptist
Medical Center, Winston-Salem, NC

患者の状態

頭皮、頭部、胸部、両上肢、両手、小範囲の両下肢を含む58%TBSAの火炎による全層熱傷を受傷した生後15か月の女児。本症例では治癒アウトカムと1年のフォローアップについて特に述べる。術者はインテグラ真皮欠損用グラフトと網状分層植皮(STSG)をRECELLと組み合わせて使用した。

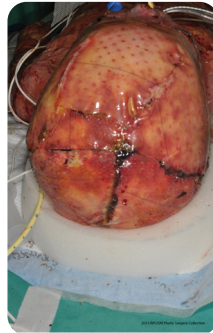
RECELL 治療部位



結語

本症例では、全層熱傷に対するSpray-On Skin Cellsとインテグラ真皮欠損用グラフト、高倍率網状植皮の組合せ治療が示されている。58%TBSAという広範囲の熱傷に関わらず、この患者では95~99%を超える創閉鎖が術後28日以内に得られ、長期アウトカムにおいても良好な結果を得ている。

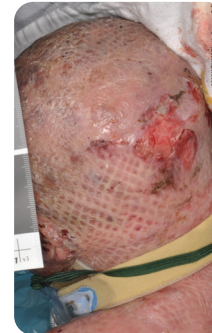
治療日



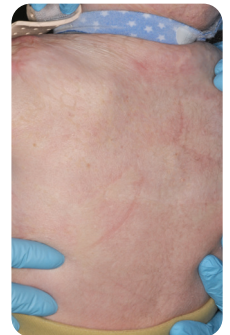
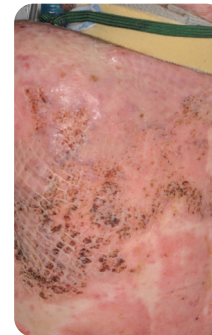
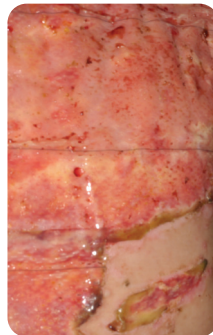
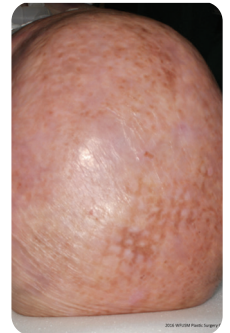
術後7日



術後28日



術後1年



治療法

始めに、切除術実施後、インテグラ真皮欠損用グラフトを頸部、顔面部、頭部、手、足に適用し、アログラフトを頭部や胸部、両上肢及び下肢の複数個所に適用した。陰圧閉鎖療法(NPWT)も四肢に対して使用した。受傷から31日目、インテグラのシリコン層を剥がした。全ての創部でVERSAJET[®]を使用して接線切除を行った。Spray-On Skin[™] Cells作成のため、RECELLシステムを使用。4:1網状分層植皮(STSG)を胸部に、3:1網状STSGを他の部位に移植し、ステイプラーで固定した後、Spray-On Skin Cellsを噴霧した。治療部位の被覆には、Telfa[™] ClearとXeroform[™]を使用した。

手と関節部の熱傷治療について、RECELLの安全性と効果は、実証されていない。

臨床的アウトカム

インテグラの上に高倍率網状植皮とRECELL Spray-On Skin Cellsを使用した全ての部位でRECELLを使用した術後7日に90%を超える再上皮化が得られ、28日が経過するまでに95~99%を超える再上皮化が得られた。受傷から1年後、医師の報告では患者の熱傷治療部位で若干の色(血色)と色素のミスマッチが確認された。この患者の入院期間は79日であった。気道熱傷とその治療に伴う気管切除がこの入院期間には大きく影響している。

本紙に掲載している症例は、臨床成績の一部を紹介したものです。全ての症例で同様の効果を保証するものではありません。

